第20回夢・未来熊谷ジュニア議会　質問・答弁

【質問】 質問番号1　市長公室関係

議席番号1　熊谷東中学校　大河原（おおかわら）　春輝（はるき）　議員

熊谷市の認知度アップのために

他の市の人からすると、熊谷市の認知度がそこまで高くないように思えます。

そこで熊谷市の認知度をもっと上げるために、ユーチューブなどに熊谷市の動画をアップすることや、市のイベントにゆるキャラを参加させて行事とゆるキャラをセットで覚えてもらうなど、ゆるキャラとSNSを活用して認知度を上げる取組をしてみてはいかがでしょうか。

議席番号2　大里中学校　西田（にしだ）　愛（あい）　議員

外国の方々に来てもらうために

日本は近年、訪日外国人の方が増えています。外国人の方は、訪日しただけでは熊谷市の魅力が伝わらないと思います。

そこで、熊谷市が運営しているSNSを二次元コードで読み取れるようポスターにして、外国人向けに熊谷駅や熊谷市内の観光名所などに掲示するとともに、パンフレットとして配布するのはいかがでしょうか。

また、SNSで外国人向けに外国語表記のものも発信し、熊谷市の特産物や観光名所などを載せるのはいかがでしょうか。

議席番号3　大幡中学校　髙木（たかぎ）　結愛（ゆあ）　議員

用水路について

最近は、大雨が降ると川だけでなく、用水路も増水や洪水のリスクがあると感じています。しかし、用水路の危険は、近くに住んでいないと気づきにくく、特に子どもや高齢者が知らずに近づいてしまうと、とても危険です。

そこで提案です。川と同じように、用水路の洪水や増水のリスクがわかる「ハザードマップ」や注意喚起の看板などを設置することで、地域の安全を高めることができるのではないでしょうか。このような対策について、ご検討ください。

議席番号4　妻沼東中学校　田中（たなか）　然（ぜん）　議員

地域と学校が連携した避難訓練

高齢者などは、スマホを持っていなかったりするので、地震の震度や、洪水の情報が伝わりにくい現状です。万が一、利根川や荒川が氾濫したときでも、避難訓練をしていれば安全な対応ができるのではないでしょうか。資源回収のように、地域と学校で連携し、避難訓練を行うことで、多くの命を守ることができると思ったからです。

【答弁】 市長公室関係

市長

大河原春輝議員さん、西田愛議員さん、髙木結愛議員さん、田中然議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、大河原さんの「熊谷市の認知度アップ」についてですが、これまでもさまざまなイベントに「スクマム」や「ニャオざね」が登場して、イベントを盛り上げてもらっています。

また、熊谷市では、市内外問わず、多くの人に熊谷市の魅力を知ってもらうため、SNSなどを活用した情報発信に力を入れていますので、今まで以上にスクマムやニャオざねに活躍してもらい、そういった取組についても、もっと発信していきたいと思います。

次に、西田さんの「外国の方々に来てもらうために」ですが、訪日する多くの外国人や日本に住んでいる外国人の方々に、熊谷市の魅力を知ってもらい、熊谷市を訪れていただきたいと考えています。

現在、熊谷市公式インスタグラムでは、市内の風景やイベント、食べ物などについて投稿していて、フォロワー数は8千人を超え、県内で3番目に多いアカウントになっています。

このアカウントは、海外からの閲覧もあり、西田さんの提案は良いアイデアだと思いますので、より多くの外国人の方々に熊谷市の情報が届き、興味を持っていただけるような発信の方法を研究したいと思います。

次に、髙木さんの「用水路について」ですが、身近な地域の災害リスクに着目されたことは、災害への備えとして、とても重要なことと思います。

近年の集中豪雨により、身近な用水路が増水・氾濫し、大きな危険をもたらす事例が見受けられます。

熊谷市では、防災ハザードマップにおいて内水浸水履歴区域として用水路周辺での浸水も示しているほか、洪水時における避難の解説を掲載し、注意喚起を行っていますので、引き続き活用を進めていきます。

次に、田中さんの「地域と学校が連携した避難訓練」についてですが、高齢者など、災害時に情報を受け取りにくい方への配慮に着目された点は、非常に重要な視点です。

熊谷市では、地域と学校が連携して災害時に対応できるよう、地域の皆さんが自主的に結成した自主防災組織へ効果的な連携訓練を行う方法の普及を図り、日頃から協力体制の強化の支援に取り組んでいます。

実際に、そうした訓練に小・中学生や学校の先生が参加する事例も見られます。

また、今年度から防災ラジオの貸し出しを始め、災害時に情報の入手が難しい方々にも、確実に災害情報を届けられるよう努めています。

これからも、地域と学校と行政が連携し、誰一人取り残さない防災に取り組んでいきます。

市長公室長

続きまして、大河原春輝議員さんの「熊谷市の認知度アップ」についてお答えします。

スポーツを通じたまちづくりのシンボルキャラクター「スクマム」と、熊谷市のマスコットキャラクター「ニャオざね」は、熊谷市が主催するイベントで登場するほか、地域行事や観光イベントなどで依頼があれば会場で活躍しています。

熊谷市では、市の情報発信の取組として、公式のＸやインスタグラム、ユーチューブ、LINEアカウント「クマぶら」などを運用しており、スクマムやニャオざねも度々登場してもらっています。彼らの活動を通じて、多くの方々に熊谷市のことを知ってもらい、訪れてもらえるよう、引き続き情報発信に力を入れていきたいと思います。

続きまして、西田愛議員さんの「外国の方々に来てもらうために」についてお答えします。

現在、熊谷市公式SNSの二次元コードは、熊谷市紹介パンフレットや熊谷駅観光案内所のデジタルサイネージなどに掲載しています。

また、熊谷市公式インスタグラムでの、熊谷うちわ祭や妻沼聖天山、熊谷駅観光案内所などに関する投稿には、英語での説明を加えるなど、外国人の方々にも情報が届くような工夫もしているところです。

これからも、熊谷市観光協会などの関係機関と連携しながら、西田さんの提案を参考に、より多くの外国人の方々に熊谷市の魅力が伝わるような情報発信の方法を研究したいと思います。

危機管理監

続きまして、髙木結愛議員さんの「用水路について」お答えします。

熊谷市では、過去に浸水被害のあった場所を「内水浸水履歴区域」として防災ハザードマップに明示しています。用水路周辺での浸水も、この履歴に基づき掲載されており、市民の皆様に身近な浸水リスクを知っていただくための情報として活用されています。今後、よりきめ細かく用水路の危険性を周知できるよう、掲載内容や周知方法について研究していきたいと考えています。

注意喚起の看板設置については、髙木さんの提案のとおり、身近な危険箇所に注意を促す看板を設置するのは非常に有効な手段です。これまで、地域の皆様からの要望があった場所については、担当する課が設置を検討しています。しかしながら、車両や歩行者の通行の妨げになることもあり、現状では、設置できない場所もあります。

こうしたことから、今回いただいた提案を受け、危機管理課と担当する課が連携し、通行の安全を確保しつつ、用水路の危険性を効果的に知らせる注意喚起の方法について、検討していきたいと考えています。

続きまして、田中然議員さんの「地域と学校が連携した避難訓練」についてお答えします。

災害が発生したときに被害を軽減するためには、地域で協力して助けあうことが欠かせません。

熊谷市には、地域の皆様の「自分たちの地域は自分たちで守る」という意思に基づき、自主的に結成された自主防災組織が266団体あり、防災知識の普及、防災訓練の実施、災害危険個所の把握など、日頃から地域の防災・減災への取組を行っていただいています。

その取組の中には、複数の自主防災組織が合同で防災訓練を行い、その地区の小・中学生や学校の先生も参加し、地域との情報共有や連携体制づくりを進めている事例もあります。

こうした事例の紹介や既存の学校行事を活用することなど、自主防災組織へ伝達訓練や避難訓練、避難所運営訓練といった効果的な連携訓練を行う方法の普及を図り、地域と学校が協力できるよう支援していきます。

【質問】 質問番号2　総合政策部関係

議席番号5　大麻生中学校　齋藤（さいとう）　柚希（ゆずき）　議員

ゆうゆうバスの利用改善について

私たちが住んでいる大麻生には、ゆうゆうバスが走っています。

利用者の多くは、高齢者や免許を持っていない方だと思います。私の住む地区でたくさんのバス停がありますが、よく目にするのが、長時間バスを待つ人たちです。

熊谷市は暑いことで有名ですが、暑さ対策の一環としてゆうゆうバスの運行状況や、現在位置が確認できるWebサイトだけでなく、アプリを導入するのはいかがでしょうか。

議席番号6　江南中学校　吉田（よしだ）　唯人（ゆいと）　議員

市内のバス停留所を快適に

市内のバス停留所では日陰がないところが多く、熱中症になる危険性や太陽からの日をよけづらくなっている場所も見られ、僕は熱中症対策が不十分ではないかと思っています。

なかには屋根がついているところもありますが、汗をかいたままバスに乗ったり、雨にぬれたままバスに乗ったりすると、次バスに乗る人が気持ちよく乗れないと思います。

熱中症を予防するため、また、バスに気持ちよく乗車するためにも、日よけや雨よけの屋根を各停留所に設置するのはどうでしょうか。

議席番号7　荒川中学校　鈴木（すずき）　竣也（しゅんや）　議員

暑さ対策について

近年、地球温暖化により、夏の間は、より一層暑い日が続いています。

私は、剣道部で活動していますが、とてつもない暑さの中で稽古をするのはとてもきついです。

熊谷市は暑い街として、熱中症対策への呼びかけや、涼むことができるスポットの設置など熱中症対策が進んでいます。

そこで、現在、プラスチックごみの削減を目的として図書館等に設置されているマイボトル用給水機を、室内スポーツにおける熱中症対策を兼ねて、体育館に設置してみるのはいかがでしょうか。環境対策と熱中症対策を同時にアピールできると考えています。また、今後の市の方策等がありましたら教えてください。

【答弁】 総合政策学部関係

市長

齋藤柚希議員さん、吉田唯人議員さん、鈴木竣也議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、齋藤さんの「ゆうゆうバスの利用改善について」ですが、現在、全国的に高齢化が進み、運転免許返納者が増加するなど、移動困難者への対応が重要となっています。

そのため、齋藤さんの考える高齢者や免許返納者への配慮や利便性の向上は大切なことです。

一方で、運転士不足が深刻となるなど、現在の公共交通を維持していくことが難しくなっているという側面もあります。実際に多くの都市でバスの運行便数の減少や廃止などが見られます。

熊谷市においても高齢化が進行している中、ゆうゆうバスなどの移動手段の確保や市民生活の維持は、重要な課題となっていることから、持続可能で効率的な交通ネットワークを構築するとともに、「クマぶら」等の ICT の活用による利用促進を進めています。

次に、吉田さんの「市内のバス停留所を快適に」ですが、熊谷市内には、民間バス会社が運行している民間路線バスと、熊谷市が運行しているゆうゆうバスがあります。主に、民間路線バスは歩道の整備された国道や県道を運行し、ゆうゆうバスは、民間路線バスが走っていない地域を中心に運行しています。

民間路線バスでは、歩道の広さや、乗降客の多さなどにより、屋根付きのバス停が設置されている例もありますので、設置箇所を増やせるかどうか、民間のバス会社や道路の管理者と相談していきたいと思います。

また、吉田さんが提案された「熱中症対策の視点」も、重要なものと認識していますので、バスを気軽に待つことのできる取組として、「バス待ちスポット登録制度」などを活用し、市民の方々が利用しやすい公共交通を目指していきます。

次に、鈴木さんの「暑さ対策について」ですが、熊谷市も荒川中学校も、これまで様々な暑さ対策に取り組んできました。その結果、それぞれの取組は、環境省や全国の企業などで組織される「熱中症声かけプロジェクト」の「ひと涼みアワード」でトップランナー賞をはじめ数々の賞を数年にわたり受賞するなど、広く評価されているところです。

近年は、記録的な猛暑が続き、スポーツ環境における暑さ対策は重要な課題となっていますので、現在建替えに向けた準備を進めている新市民体育館には空調設備を設ける予定です。また、小中学校の体育館にも、空調設備を設置することとしました。

これからも、皆さんからアイデアをいただきながら、引き続き暑さ対策に取り組んでいきます。

副市長

続きまして、齋藤柚希議員さんの「ゆうゆうバスの利用改善について」お答えします。

ゆうゆうバスの運行状況や現在位置については、Webサイトのほか、LINEアプリである「クマぶら」からも確認できます。

「クマぶら」とは、熊谷市が令和3年度から導入しているアプリで、地域の情報やお得なクーポンなどのサービスが受けられるほか、キャッシュレスで、ゆうゆうバスに乗車可能な

スマホ回数券も利用できます。
「クマぶら」があれば、ゆうゆうバスの情報をまとめて手に入れることができます。
また、一部の乗換案内サービスを提供しているアプリからも、ゆうゆうバスの運行状況は確認可能です。
現在、熊谷市では、ゆうゆうバスの情報を誰でも利用できるオープンデータとして公開するなど、幅広く利活用を進めていますので、これからも利用者の移動ニーズ等に対応できる取組について研究していきたいと考えています。
皆さんもお出かけの際は、ぜひゆうゆうバスを御利用ください。

続きまして、吉田唯人議員さんの「市内のバス停留所を快適に」についてお答えします。
歩道の整備された国道や県道などの大通りを中心に運行している民間路線バスに対し、ゆうゆうバスは、主に、住宅街や郊外など、道路の幅が狭く、歩道の無い道路を運行しています。そのため、屋根付きのバス停を設置する場合には、歩行者や自動車の通行の妨げになることや、事故に繋がる危険性も考えなければなりません。
加えて、熊谷市内に約220か所ある、ゆうゆうバスのバス停に屋根を設置する場合には、多額の費用がかかり、これを維持管理していく費用も継続してかかることを踏まえると、ゆうゆうバスのバス停への設置は難しいと考えています。
一方で、市民からのニーズがあることも認識しており、熊谷市では、埼玉県が進めている「バス待ちスポット登録制度」の活用を進めています。これは、バスを待つための取組として、バス停近くの店舗や公共施設等にバス待ちスポットとして登録してもらい、椅子やトイレを提供していただく制度です。
これからもこの制度への登録を推奨していくなどし、バスを利用する皆さんの利便性向上に努めていきたいと考えています。

総合政策部長
続きまして、鈴木竣也議員さんの「暑さ対策について」お答えします。
室内スポーツの熱中症対策として市民体育館の柔剣道場には空調設備を設置しているほか、市民体育館のアリーナや妻沼地域にある武道館には、大型の冷風機を設置したほか、空調設備が整備されていない施設では、冷房が効いている会議室を開放し休憩していただいたり、冷水機を設置したりするなど、暑い中でもスポーツ活動の安全性を確保するための取組を進めています。
鈴木さん提案のマイボトル用給水機については、体育館を利用する方の声を聞きながら検討するとともに、空調設備や冷風機の導入を進め、暑さ対策に取り組んでいきたいと考えています。

【質問】 質問番号3　市民部関係

議席番号8　吉岡中学校　保泉（ほずみ）　花帆（か ほ）　議員

自転車の利用

私は中学生になってから、休日の部活動などで自転車を使うことが多くなりました。しかし、自転車の交通ルールが分からないときが何度かありました。まだ、自転車の交通ルールを理解できている中学生は少ないと思います。私は自転車を正しく利用する中学生を増やし、熊谷市で起きる事故を少なくしていきたいと思います。

そこで、自転車の正しい利用についてパンフレットなどで広めていく活動を増やしていくのはどうでしょうか。

議席番号9　妻沼東中学校　清水（しみず）　帆乃華（ほのか）　議員

空き家の活用

私は、先日埼玉県に空き家の数が約33万戸あるというデータを見ました。私の住んでいる妻沼も年配の方が多く、空き家も見られます。適切に管理されていない空き家は犯罪の危険や雑草、害虫、倒壊などの危険があると考えます。

そこで、空き家を活用して子供たちが勉強できるカフェや子ども食堂、大人が仕事するためのスペースにして、地域の人たちが交流できる居場所にするのはいかがでしょうか。

議席番号10　中条中学校　井桁（いげた）　睦季（むつき）　議員

熱中症になった場合の対応について知らせる

熊谷市は暑さ対策に力を入れていて、駅前の冷却ミスト設置やクールスカーフや日傘の配布など、様々な対策を進めています。しかし、もし熱中症になった場合の対応の仕方については十分に知らされていないと思います。今年は最高気温の日本最高記録が更新されるなど年々暑くなっています。

そこで、「熱中症になったら」のことが分かるパンフレットやガイド付きのキットを配るのはいかがでしょうか。

【答弁】 市民部関係

市長

保泉花帆議員さん、清水帆乃華議員さん、井桁睦季議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、保泉さんの「自転車の利用」についてですが、自転車は幼児から高齢者まで幅広い年齢層が利用する便利な乗り物です。しかし、交通違反やマナーの悪さを原因とした交通事故も多く発生しています。

交通ルールやマナーをしっかり守ることが交通事故防止につながりますので、保泉さんが提案された、「自転車の正しい利用を広める活動」は大変重要です。

自転車の交通事故を減らすため、警察等と協力し、これからも様々な啓発活動を通じて交通ルールやマナーの周知を図り、交通事故防止につなげていきたいと考えています。

次に、清水さんの「空き家の活用」についてですが、人口減少や少子高齢化の進行等に伴い、適切な管理が行われていない空き家が、様々な面において周辺の生活環境に悪影響を及ぼしていることが大きな社会問題になっています。

熊谷市では、空き家の所有者向けの相談会や空き家に住みたい人と空き家を持っている人をつなぐ「空き家バンク」の取組などを行っています。清水さんの提案のように、使える状態にある空き家の活用を所有者に促していくことは、空き家を減らすとともに、地域の活性化を図るためにも大切ですので、これからも適切な管理や有効活用に向けた所有者への支援等に取り組んでいきます。

次に、井桁さんの「熱中症になった場合の対応について知らせる」ですが、「熱中症は予防できる病気」と言われており、熊谷市では、熱中症予防のための様々な対策を進めています。また、熱中症になった場合の対応方法について、井桁さんの提案のとおり、「初期段階での適切な対処」を広く知らせることが最も大切です。

皆さんは、部活動や課外活動など、屋外で過ごす時間も多いのではないでしょうか。そのような時は、こまめな休憩や水分補給により熱中症予防を心掛けるほか、仲間の様子にも目を向け、普段との違いに気づいたら、声を掛けるようにしてください。

これからもジュニア議員の皆さんに協力いただきながら、一人一人が健康でいられる取組を進めていきたいと考えています。

市民部長

続きまして、保泉花帆議員さんの「自転車の利用」についてお答えします。

熊谷市では、自転車に乗る機会が増える新中学1年生全員に自転車安全利用五則を記載したクリアファイルを配布しています。

自転車安全利用五則とは、自転車利用者が被害者にも加害者にもならないよう、交通事故を防ぎ、自転車を安全に利用してもらうことを目的として定められた、自転車に乗る全ての人が守るべき特に重要な5つの交通ルールです。

自転車は運転免許が不要で、手軽に乗れるものだけに、交通ルールを守らないと事故の危険が高くなります。

現在、熊谷市では、自転車の安全な乗り方の実技指導と交通ルールを学ぶ交通安全教室を市内全ての小学校で実施しているほか、中学校でも交通安全教室を行い、安全な行動を身につけられるように取り組んでいます。

これからも、自転車事故を減らすため、「自転車の正しい利用」について、より効果的な周知ができるよう、その方法や内容を工夫し、また、警察や交通安全協会などの交通関係団体と協力して、啓発活動を進めていきたいと考えています。

続きまして、清水帆乃華議員さんの「空き家の活用」についてお答えします。

空き家の状態にある住宅なども基本的には個人の財産ですので、適切な管理や有効活用等を図っていただくためには、所有者等に問題意識を持ってもらうことが重要です。

その上で、空き家を活用するためには、その建物や敷地の状態を確認することや、活用を続けていくために、どれくらいの費用が掛かるかなど、様々な分野での検討が必要となります。

これからも、所有者等への意識啓発に努めるとともに、相談会の開催などにより、各分野の専門家との相談機会を提供していきます。

また、空き家の状態になる前から、将来、我が家をどうするかを考えていただくことも、空き家の発生予防のためには重要ですので、「我が家の終活ノート」という冊子を作成し、市のホームページに掲載しているほか、市役所や公民館などにも置いています。

大切な我が家が将来空き家とならないよう、これからも啓発に努めていきます。

続きまして、井桁睦季議員さんの「熱中症になった場合の対応について知らせる」にお答えします。

熊谷市ホームページの「健康・保健」の中の「啓発ページ」において、熱中症の予防方法や対応について、わかりやすくお伝えしています。

また、熱中症予防のチラシを毎年作成し、熱中症の危険が高まる7月に各家庭へ市報と一緒に配布しています。

昨年度は熱中症の応急処置マニュアルとしてフローチャートや対処法について、今年度は高齢者の熱中症予防に関する内容をお知らせしました。

来年度の市報やチラシなどを作成する際には、井桁さんに提案いただいた内容の掲載を検討し、熱中症の対応方法について、広くお知らせしていきたいと考えています。

【質問】 質問番号4　福祉部関係

議席番号11　大原中学校　中島（なかじま）　宗作（そうさく）　議員

高齢者の健康対策

熊谷市内を歩いてみると、駅から近い場所でも歩行者があまりいないと感じました。昔から熊谷市に住んでいる祖父母にも聞いてみましたが、やはり昔に比べて歩行者の数は減っている印象を持っていました。お店同士の距離が離れていたり、買い物ができるところが家から遠かったりするなど、様々な要因があると思いますが、特に高齢者の方にとっては、外出が不便になっていると思います。

そこで、高齢者の方が気軽に集まれるような取組を実施したらどうでしょうか。近所の歩いて行ける距離にある施設が交流の場となって、市民同士が会話したり飲食したりできるようになることで、一人暮らしの方のコミュニケーションの場にもなりますし、多くの人が集まって活気のある空間になると思います。

議席番号12　玉井中学校　茂木（もてぎ）　理穂子（りほこ）　議員

子ども食堂を皆に知ってもらうために

最近、子ども食堂に関するCMが増えてきているイメージがあります。全国では、子ども食堂は昨年度に比べて1,735か所増加し合計で10,867か所もあるそうです。熊谷市でもたくさんの場所で行われていたり、リーフレットも作成されていたりします。しかし、子ども食堂について名前は知っていても内容を知らない人も多いのが現状です。

そこで内容を知ってもらうために、小中学校で講演会をひらいたり、熊谷市が作成しているリーフレットを駅や公園など人が多いところに置いたりするのはいかがでしょうか。

議席番号13　大幡中学校　水島（みずしま）　龍翔（りゅうと）　議員

子どものための施設を、今ここに

暑い日が続くため、最近は家でゲームをする子どもが増えていると感じています。

そこで、子どもたちが外で元気に遊べる環境をもっと増やしてはいかがでしょうか。

例えば、ミスト扇風機が設置された自然豊かな遊び場や、小学生から高校生までが利用できる子ども食堂などの施設を増やすことで、家の中でゲームをする以外の楽しみを見つけられると思います。

このような子どもたちの居場所づくりや遊び場の充実について、ご検討ください。

議席番号14　三尻中学校　新井（あらい）　結香（ゆか）　議員

子育て支援について

現在、共働きの子育て世代の保護者は、子どもの急な体調不良でお迎えが必要となったときに、どちらかが仕事を休んで行かなくてはいけません。

そこで、働きやすさ、子育てのしやすさを支援するためにも、お迎えサービスや、一時の預かり制度を整えるとよいと思います。そうすれば、働いている保護者が、安心して子育てをすることができると思います。

【答弁】 福祉部関係

市長

中島宗作議員さん、茂木理穂子議員さん、水島龍翔議員さん、新井結香議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、中島さんの「高齢者の健康対策」についてですが、交通手段や買い物の利便性など、さまざまな理由から高齢者の方の外出機会が減少し、社会的孤立や心身機能の低下につながることは、防ぐべき重要な課題です。その解決策として「気軽に集まれる交流の場」の必要性についての中島さんの提案は、まさにこの課題を解決する視点だと共感しています。

熊谷市では高齢者の方の健康維持と交流を図る「通いの場」の支援や買い物支援に重点的に取り組んでいます。これからも高齢者の方が住み慣れた地域で、いつまでも健康で生きがいを持って暮らすことができるよう、地域の施設等を生かした気軽に集える交流の場づくりを進めていきます。

次に、茂木さんの「子ども食堂を皆に知ってもらうために」についてですが、熊谷市では、ボランティアの方々やNPO法人など民間の団体が、活発にこども食堂を行っており、様々なイベントを実施するなど積極的に活動されていますので、市としてはその活動を支援したいと考えています。

市内各地で開催している「こども食堂」がどの様な活動をしているのかを皆さんに知ってもらうことは重要なことだと私も思いますので、茂木さんから提案いただいた方法も含めて、色々な手段を活用して、広報・周知を行っていきたいと思います。

次に、水島さんの「子どものための施設を、今ここに」についてですが、「こどもの居場所」は、国をあげて取り組んでいる重要な課題の一つであり、ジュニア議員の皆さんの意見が聞けることはありがたく思います。

皆さんもご存じだと思いますが、いよいよ来年4月、石原小学校の隣に、子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」がオープンする予定です。愛称募集では、中学生の皆さんからも、多くの応募をいただき、ありがとうございました。

この「くまキッズ」では、種類豊富な遊具を揃えたスペースや音楽活動、ダンス、学習ができる部屋など、様々な施設を備えており、また、夏でも屋外で過ごせるようミストシャワー等もあります。中学生の皆さんも利用できますので完成を楽しみにお待ちください。

次に、新井さんの「子育て支援について」ですが、私は「親子の笑顔が輝くまち創(づく)り」を基本政策の一つに掲げていますので、このテーマを取り上げてくれたことを嬉(うれ)しく思います。

具体的な取組としては、まず、今年度から0歳から2歳までの保育料を完全に無償化しました。これは、子育て世帯への大きな応援メッセージです。

また、質問にあった「病気になったお子さんのための支援」については、病児保育や病後児保育など、安心して子育てができるためのサポートがあります。

これからも、様々な取組を行い、子育て世代の支援をしっかり進めていきます。

福祉部長

続きまして、中島宗作議員さんの「高齢者の健康対策」についてお答えします。

熊谷市では、高齢者の方が元気でいきいきと生活するための取組として、通いの場である「ニャオざね元気体操」の活動支援を行っています。

この体操は、おもりを使った簡単な運動を通じて手足の筋力アップを目指すもので、自宅から歩いて通える地元の公民館などで、地域の仲間が自主的に集まって活動しています。

現在、市内に69のグループがあり、体操だけでなく参加者同士のコミュニケーションを楽しむ場としても機能し、仲間と一緒に健康を維持できる交流の場となっています。

また、買い物支援として、事業者の皆様と連携し、市内全域の延べ108か所で移動販売を実施しています。これは、日用品や食料品を身近な場所で購入できるという利便性だけでなく、高齢者の方の貴重な交流の機会となっています。

中島さんの提案は、とても大切な取組だと思いますので、これからも体操グループの新たな立ち上げや参加者を増やすための支援を積極的に進めるとともに、移動販売についても、地域や事業者との連携を密にし、より多くの方が利用しやすい体制を整備したいと考えています。

続きまして、茂木理穂子議員さんの「子ども食堂を皆に知ってもらうために」についてお答えします。

熊谷市では、市内のこども食堂を取りまとめている「熊谷こどもまんなかネットワーク」という民間の団体があり、リーフレットの作成やサイト運営など、精力的に活動しています。市では、そのリーフレットを公共施設に配布したり、市のホームページに掲載したりして、活動を支援しています。

提案いただいた「小中学校での講演会」は、素敵（すてき）なアイデアだと思いますので、皆さんの学校で開催希望があれば、こども課に相談いただければと思います。また、リーフレットを置く場所については、多くの人にみてもらえるよう各施設に確認のうえ、検討したいと思います。

続きまして、水島龍翔議員さんの「子どものための施設を、今ここに」についてお答えします。

先程、市長がお答えした、子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」内のこども館では、親子で楽しめる乳幼児室や、3歳から小学生までが利用できるプレイルームがあり、複合遊具やクライミングウォールなどで遊ぶことができます。また、中学生・高校生なども利用できる軽体育室やダンスルームを備えており、室内で身体を動かすこともできます。ほかにも、音楽スタジオ、自習室などを整備し、2階のロビーには漫画や中学生高校生向けの図書も設置する予定です。

こども館に隣接する中央広場には、屋外用の遊具やウッドデッキも設置し、さらにその隣には、バスケットゴールを設置するなど、屋内外で楽しんでいただける施設として整備を進めていますので、オープンしましたら、皆さんもぜひ、ご利用ください。

続きまして、新井結香議員さんの「子育て支援について」にお答えします。

熊谷市では、お子さんが急に病気になっても、保護者の方が安心して仕事などができるようにお預かりする病児保育というサービスを行っています。もし保育中に体調が悪くなって、保護者の方がすぐにお迎えに行けない場合でも、無料で送迎しています。

また、熱が下がってきたなど、病気が回復に向かっている途中で、まだ集団生活が難

しいお子さんを一時的に保育所で預かる病後児保育事業や、保育所で体調が悪くなったお子さんを、そのまま看護師さんが見守り、預かる事業なども行っています。
　新井さんの提案のとおり、お子さんが病気の時こそ、保護者の方の不安を少しでも軽くするなど、これからも安心して子育てができる環境づくりを進めていきます。

【質問】 質問番号5　環境部関係

議席番号15　富士見中学校　青木（あおき） 涼（りょう） 議員

熊谷市を、「日本一の暑さ対策のまち」にするために

熊谷市は全国的に暑さで知られています。その課題を解決するため、熊谷独自の暑さ対策グッズを特産品として開発することを提案します。例えば、駅のミストを応用した携帯型ミスト扇風機や、熊谷らしいデザインを取り入れた冷感タオルや冷感Tシャツ、さらに日傘や帽子に取り付けられる小型冷却装置などです。これらを「熊谷の暑さ対策ブランド」として発信すれば、観光や地域振興につながり、熊谷の魅力を高められます。

また、販売で得た利益の一部を学校の冷房整備、特に特別教室や体育館の空調設置に充てれば、子どもたちが安心して学べる環境づくりにも直結します。熊谷を暑さ対策の先進都市として全国に発信してほしいです。

議席番号16　別府中学校　川田（かわた） 大夢（ひろむ） 議員

ホタルを育てる人の減少について

私たちは、未来の別府をつくるために地域の方々と座談会を行いました。そこで、ある方が最近、熊谷市ではホタルを育てる人が減っており、いつかホタルが見れなくなってしまうのではないかと心配していました。実際に、地域で活動している人の多くは高齢で、若い世代の参加は少ないそうです。

そこで、熊谷市と連携し、小・中学9年間の間毎年、児童生徒が自分の家でホタルを育て、育てたホタルをお祭り等で夜空に放す取組を進めるのはいかがでしょうか。また、ホタルの育つ川の環境を整える活動を熊谷市民全体に呼びかけることを忘れてはいけないと考えました。いかがでしょうか。

議席番号17　江南中学校　飯塚（いいづか） ひまり 議員

ムサシトミヨについて

ムサシトミヨは、熊谷市にだけ自然に生息する魚です。現在では絶滅危惧種に指定されています。市の魚に指定されていますが、私は江南に住んでいてムサシトミヨについて知る機会があまりありません。環境汚染により絶滅危惧種に指定されてしまったこの魚について知ることは、自然を大切にする考えを育てると思います。

そこで義務教育中に外部の方々を招き、ムサシトミヨについて知る授業を行うのはどうでしょうか。

議席番号18　大原中学校　中條（ちゅうじょう） 成美（なみ） 議員

ごみのポイ捨てを減らすために

最近、通学路にある用水路や草むらなど、いたるところでごみがポイ捨てされているのを見かけます。毎朝このような光景を見ながら登校すると、私たちの住む街にもこんなことをする人たちがいるのかと悲しくなります。正直、看板やポスターがあっても、ごみ拾いのボランティアがあっても、ポイ捨てはなくならないと思います。

そのために、ごみのポイ捨ての対策を見直した方がいいと思います。例えば、外国では道路にごみ箱が多く設置されているところもあります。自治会などに依頼してごみ箱の設置やごみの回収をしたり、他の自治体を参考にした政策を考えてみたりしてみてはいかがでしょうか。ぜひご検討ください。

議席番号19　玉井中学校　笠原（かさはら）　拓翔（たくと）　議員

ごみ集積所について

私は、熊谷市のごみ収集カレンダーを見ながら週2で燃えるごみのごみ捨てを行っています。私が利用しているごみ集積所は網をかぶせるタイプのごみ集積所ですが、カラスなどにいたずらをされて、ごみが散乱してしまっていることがあります。そのため、匂
いと害虫が発生し、衛生的ではない状況になっていることもあります。

そこで、ボックスタイプのごみ集積所の設置が増えれば、被害は減少していくと思います。

また、小中学生が描いている環境ポスターなどを貼ったボックスタイプのごみ集積所があると環境に関する意識もより高まると考えます。

【答弁】 環境部関係

市長

青木涼議員さん、川田大夢議員さん、飯塚ひまり議員さん、中條成美議員さん、笠原拓翔議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、青木さんの「熊谷市を、「日本一の暑さ対策のまち」にするために」ですが、熊谷市では、暑さから市民を守るとともに、暑さを活用した地域の活性化と情報発信を図ることを目的として、平成22年度から「暑さ対策プロジェクトチーム」を設置し、暑さに対する新たな対策と活用策の調査や研究、そして企画や立案を行ってきました。

この暑さ対策事業は、環境省をはじめ、企業、行政、民間団体で組織される、熱中症予防を推進する運動「熱中症予防声かけプロジェクト」の「ひと涼みアワード」において、日本一の評価である「トップランナー賞」をはじめ、各種の賞を受賞しています。

平成30年度には官民連携部門で最優秀賞を受賞し、令和2年度にこれまでの功績が認められ、アワード初の殿堂入りとなりました。その後も熱中症ケア部門で最優秀賞を受賞し、令和4年度はオンライン啓発部門で最優秀賞を受賞しています。

これからも、市民の健康を守るため、暑さ対策日本一のまちづくりを行っていきます。

次に、川田さんの「ホタルを育てる人の減少について」ですが、ホタルは、きれいな水辺で育ち、6月頃に成虫となります。

熊谷市では、熊谷市ホタルの保護に関する条例で、ホタルの保護重点区域を定め、ホタルを保護しています。しかしながら、地域で活動している人の多くは高齢であり、今後広く活動を続けていくためには若い世代の力が必要です。熊谷市では、広い世代に向けて、ホタルの保護活動を啓発し、生息環境を保全していきたいと考えています。

次に、飯塚さんの「ムサシトミヨについて」ですが、ムサシトミヨは、環境省や埼玉県のレッドリストで「絶滅危惧種ＩＡ類（ぜつめつきぐしゅいちえーるい）」に分類されている希少な魚です。現在では世界で熊谷市だけに生息する魚となっています。

これからも、皆さんを始めより多くの児童生徒の方に、ムサシトミヨについて学び知ってもらう機会が提供できるように、様々な機会を通じて広く周知していきたいと考えています。

次に、中條さんの「ごみのポイ捨てを減らすために」についてですが、これまで、私たちの生活は、経済の成長と技術の発展により、便利で豊かになりました。その一方で、大量生産、大量消費、大量廃棄に端を発する様々な環境問題が発生し、その中でも「ごみのポイ捨て」は、解決が難しい問題の一つです。

現在、天然資源の消費や、ごみの発生を抑制する、循環型社会の確立が強く求められており、熊谷市では、リフューズ(拒否) 、リデュース(減量) 、リユース(再利用)、リペア(修理)、リサイクル(再生)を推進する５Ｒ（ファイブアール）の取組に力を注いでいます。

これらの取組を、市民の皆さんと一体となって進めていくことで、循環型社会の実現、また、美しい熊谷市の維持に繋がるものと考えています。

次に、笠原さんの「ごみ集積所について」ですが、笠原さんは、週2回燃えるごみを集積所に出しているとのことで、登校前の忙しい時間にとても立派なお手伝いだと思います。

熊谷市内には、約3,500箇所の集積所がありますが、日頃の維持管理は、自治会や

集積所の利用者など、地域の皆さんの協力により行われ、まちの環境美化が保たれています。また、集積所の形状やタイプも様々であり、その場所に適した物品を利用するなど集積の方法を工夫していただいています。

提案をいただいた、ボックスタイプの集積所に小中学生が描いた環境ポスターなどを貼ることについては、市民の皆さんに、環境に対する考え方や、意識を高めていただくうえで、とても良いアイデアだと思いますので、検討してみたいと思います。

環境部長

続きまして、青木涼議員さんの「熊谷市を、「日本一の暑さ対策のまち」にするために」についてですが、提案いただいた、携帯型ミスト扇風機、冷感タオル、冷感 T シャツ、日傘や帽子に取り付けられる小型冷却装置など、大変素晴らしいアイデアだと思います。

現在、熊谷市では、販売を想定した暑さ対策グッズの開発は行っていませんが、厳しい暑さから市民の皆さんの健康を守るために、新しい素材や技術を活用した暑さ対策の研究に取り組んでいます。

令和6年度に、市民、大学、産業関係者の方々と、暑さに関するデータを活用して、熊谷市を涼しくするアイデアを募る「スマートクールシティワークショップ」を開催しました。

今年度は、「スマートクールシティワークショップ」で提案いただいたアイデアを基に、大阪・関西万博の一部のパビリオンの膜素材としても利用されている、放射冷却素材を使用したタープテントを制作しました。

また、同ワークショップでいただいた別のアイデアを基に、歩く人を自動で追尾する自動水まきロボットを制作し、熊谷うちわ祭でデモンストレーション走行を行い、沿道の皆さんを驚かせました。

これからも、市だけではなく、市民の方々や民間事業者のお力もお借りしながら、暑さ対策日本一のまちづくりを行っていきます。

続きまして、川田大夢議員さんの「ホタルを育てる人の減少について」にお答えします。

ホタルは、きれいな水辺でカワニナという貝をエサにして育ち、6月頃に成虫となり光を放ち飛び立ちます。熊谷市では、熊谷市ホタルの保護に関する条例で、ホタルの保護重点区域を定め、区域内でのホタル及びカワニナの捕獲が禁止されています。

そのため、川田さんのアイデアは、大変魅力的ではありますが、エサとなるカワニナの関係からみなさんの自宅でホタルを育てることは、難しいと思います。

熊谷市では、ホタルの生息環境を保全するために、NPO法人や自治会と協力しながら、発生数調査、青色パトロール、生息地の清掃等を行っていますが、若い世代のホタルの保護活動の参加者が少ないことが課題となっています。

引き続き多くの皆様にホタルの保護活動を啓発し、生息環境を保全していきたいと考えています。

続きまして、飯塚ひまり 議員さんの「ムサシトミヨについて」にお答えします。

ムサシトミヨは、環境省や埼玉県のレッドリストでごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いものとして「絶滅危惧種ＩＡ類」に分類されています。かつては、行田市や本庄市、東京都でも生息が確認されていましたが、環境汚染や開発の影響を受けて、現在では熊谷市だけに生息する魚となっています。

熊谷市では、ムサシトミヨの繁殖活動等を行っている「ムサシトミヨ保護センター」の見学を実施しています。ここでは、ムサシトミヨの生態や生息環境について、講義を受ける

だけでなく、展示水槽や生息地を見て学ぶことができます。
　すでに、市内のいくつかの小学校では、見学いただいておりますが、これからも、より多くの学校に利用してもらい、ムサシトミヨについて学ぶ機会が増えるよう、周知していきたいと考えています。

　続きまして、中條成美議員さんの「ごみのポイ捨てを減らすために」にお答えします。
　「ごみのポイ捨て」は、ルールやマナーが守られないことが大きな要因と思われ、これまで不法投棄防止を呼び掛ける看板などを設置してきましたが、抜本的な解決には至っていません。
　中條さんが調べていただいたとおり、海外では、ポイ捨て防止のため、バスケットボールのゴールが付いたごみ箱を設置するなどのユニークな取組も知られています。
　しかし、わが国では、ごみは持ち帰ることが基本であり、そのことは海外からも高く評価されています。
　また、ごみ箱を置くことは、適切な管理にコストもかかるので、増やすことは簡単ではありません。
　このような状況のなか、熊谷市では、地域の環境美化活動に取り組んでいただける環境美化推進員466人を委嘱し、５Ｒ（ファイブアール）の推進、ごみ集積場の適切な管理、530（ごみぜろ）運動など、地域コミュニティーとの協力体制にも力を注いでいます。
　今後は、中條さんの提案をもとに、他の自治体の先進的な事例についても、研究していきたいと考えています。
　皆さんも、身近な環境美化活動に積極的に参加していただき、一緒に「ごみのポイ捨て」のない熊谷市の実現を目指しましょう。

　続きまして、笠原拓翔議員さんの「ごみ集積所について」にお答えします。
　熊谷市では、ごみ集積所を設置する場合は、収集車両が通行可能なことや、交通上の危険性が少ないこと、１箇所の利用世帯が20世帯以上あることなどの要件を満たしていて、安全で効率的にごみ収集ができる場所としています。
　ボックスタイプの集積所は、カラスに荒らされたり、ポイ捨てをされるリスクが減るため、衛生的な管理ができると考えられますが、それぞれの場所の広さや形状も様々で、その場所に適した集積所を設置していただいていますので、増やすのは難しい面もあります。
　ごみが散乱し、集積所の美化が保たれていないケースの多くは、ごみ出しのルールやマナーが守られないことが大きな要因でもあります。
　提案いただいたボックスタイプのごみ集積所に、環境ポスターなどを貼ることについては、ごみ出しに来た市民の皆さんの目に直接留まることから、環境に対しての意識を啓発するうえでとても効果的だと考えられますので、どんな方法で実施できるか検討してみたいと思います。

【質問】 質問番号6　産業振興部関係

議席番号20　三尻中学校　五ノ井（ごのい）　智彦（ともひこ）　議員

夏だけじゃない冬もメインの熊谷市

現在の熊谷に皆が知る「冬の魅力」はなにかありますか？夏の魅力と言ったら雪くまやうちわ祭などほとんどの人が知っているし、熊谷市からの宣伝も多くあり熊谷と言ったら「夏」しか頭に思い浮かばない人が、多くいると思うので、提案します。

冬にも新しく熊谷の魅力を作るのはいかがでしょうか。熊谷の夏は暑く冬も寒くなるので、寒さが吹っ飛ぶような暖かい食べ物の食フェスを熊谷市内の各地でやることや、その他にも新しく熊谷市のイベントを作り、魅力をさらに引き出すのはいかがでしょうか。

議席番号21　奈良中学校　永崎（ながさき）　桜丞（おうすけ）　議員

熊谷市の名物をもっと身近に

熊谷市には、熊谷うどんや五家宝などの多くの素晴（すば）らしい名物があります。しかし、販売している店舗が少ないなどの理由から、食べる機会があまりないように感じます。

そこで、熊谷市内のスーパーやコンビニで売ることを提案します。そうすれば、市民や旅行者が熊谷市の名物を購入したり食べたりする機会が増え、もっと熊谷の名物を身近に感じることができると思います。ご検討ください。

議席番号22　中条中学校　巻島（まきしま）　悠人（はると）　議員

職場のストロー現象

熊谷は新幹線が通っているくらい県北一の大都市であるため、とても交通の便がよいです。高校生はコンビニや、駅前にバイトに行く人が見かけられますが、いざ成人すると電車や車で他県や他市に行って職場を見つける人も少なくないです。職場のために熊谷を離れる人も見かけられます。

成人しても就きたいと思ってもらえる市内の職場を誘致すべきだと思います。

議席番号23　大麻生中学校　大久保（おおくぼ）　陽斗（はると）　議員

野焼きを減らすために

現在、熊谷市では野焼きの禁止を呼びかけていると思います。私の通う学校の近辺には、多くの田畑があります。しかし、農作物の収穫を終えたあとの肥料とするために、野焼きを行っているのも現状です。野焼きを行うことで発生する煙で近隣住民に迷惑をかけたり、火事になったりしまうことが考えられます。しかし、わらの処分は農家にとって必要なことだと思います。

そこで、市がわらを回収し、回収分に応じて肥料を農家に渡すシステムの導入するのはどうでしょうか。ぜひご検討ください。

議席番号24　妻沼西中学校　水野（みずの）　琴音（ことね）　議員

地産地消への道

私はよく「地産地消」という言葉を耳にしますが、熊谷市の特産物やそれらが売っている場所についてあまり広く知られていないように感じます。

そこで、農家の方やスーパーマーケットの方に協力してもらい、クマPAYで購入すると安くなるなどのサービスを取り入れてみるのはいかがでしょうか。ぜひご検討ください。

【答弁】 産業振興部関係

市長

五ノ井智彦議員さん、永崎桜丞議員さん、巻島悠人議員さん、大久保陽斗議員さん、水野琴音議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、五ノ井さんの「夏だけじゃない冬もメインの熊谷市」についてですが、着眼点が面白いですね。夏は暑く、冬は寒い熊谷市ですが、うちわ祭や花火大会の夏のイベントに対し、冬には、星川や駅周辺のイルミネーション、酉の市、だるま市の恒例行事のほか、昨年は新たに「キッチンカーうまいもん＆鍋まつり」で、多くの人が集まり賑わいました。

熊谷市では、民間の方々が実施するそのような魅力的なイベントを積極的に応援していきます。

次に、永崎さんの「熊谷市の名物をもっと身近に」についてですが、提案のとおり、熊谷うどんや五家宝などをスーパーやコンビニで取り扱ってもらえれば、日常的に市民や観光客の目に触れ、口にする機会も増えて、魅力を伝えることができると思います。

どのような方法であれば販売していただけるのか、関係者の方々に相談してみたいと思います。

次に、巻島さんの「職場のストロー現象」についてですが、指摘のとおり、熊谷市は関東の中心に位置し、交通の利便性が高い都市ですが、市外に就職して引っ越してしまう若い人も多いので、市内に魅力的な職場を増やすため、私が都内で、熊谷市をPRし、都心の企業を呼び込む企業誘致の活動や、また、市内には魅力的な職場がたくさんありますので、私が企業を訪問してお話を伺い、その魅力を情報発信するなど、地元企業を市民に知っていただく取組も行い、熊谷市に住んで、働くことを推進しています。

次に、大久保さんの「野焼きを減らすために」についてですが、熊谷市の多くの農地では、米や麦の栽培が行われ、稲刈りや麦刈りの後になると、農家の方々がわらの焼却を行うことがあります。この焼却については廃棄物の処理等に関する規制の対象外となっているものですが、質問のとおり、発生する煙で近隣住民に迷惑をかけることが心配されます。農家の方々に、田んぼへのすき込み等を奨励するほか、引き続き、効果的な方策を検討したいと考えています。

次に、水野さんの「地産地消への道」についてですが、地元の農産物をより多くの人に知ってもらおうという想(おも)いは素晴(すば)らしいと思います。

熊谷市は利根川と荒川等の水の恵みによる肥沃な大地や快晴日数日本一という天候から、様々な農産物が生産されています。特に米、小麦、大豆やネギ、ブロッコリーは県内有数の産地となっています。

熊谷市では、地産地消の取組として、産業祭などのイベントでPRしているほか、昨年度から熊谷ブランド「晴れまち」を立ち上げましたので、農家、JA、市場や飲食店と協力して、地元野菜をさらに身近に感じてもらえるよう取り組んでいきたいと思います。なお、今週末の11月15日、16日には産業祭が熊谷スポーツ文化公園で開催されます。新鮮でおいしい旬の地元野菜や地元農産物を使った料理などの販売のほか商工業関連の展示や販売も行われますので、ぜひ足を運んでいただき、楽しんでいただければと思います。

産業振興部長

続きまして、五ノ井智彦議員さんの「夏だけじゃない冬もメインの熊谷市」についてお答えします。

一般的に人が寒いと感じ始める温度は、15度と言われています。また、10度以下になると強い冷え込みを感じるとのことです。

熊谷市の12月から2月の最高気温は平均で10度前後、最低気温は平均で0度前後ですので、冬の外出には強い寒さへの対応が必要ですが、五ノ井さんの提案のとおり、冬の屋外での温かい食べ物は、魅力的で、箸を持ってフーフーしている皆さんの笑顔が思い浮かびます。

皆さんには、冬の冷たく澄んだ空気の中の「星川イルミネーション」、「星川夜市」、「サンタさんの星川おさんぽナイト」、髙城神社の「酉の市」、星川の「だるま市」などの熊谷の恒例のイベントにお出かけいただき、熊谷の冬の寒さと風情を感じていただきたいと思います。

また、既存のイベントとともに、市民の皆様が協力して作り上げたイベントなど、熊谷市内で開催される多くのイベントを皆さんにお知らせするため、今年度末には「イベントチラシ掲示板」というウェブサイトを立ち上げますので、注目していてください。

そうして、熊谷市は、市民の皆様の魅力的な活動やイベントを積極的に応援していきます。

続きまして、永崎桜丞議員さんの「熊谷市の名物をもっと身近に」ついてお答えします。

熊谷市には、文化庁100年フードに認定されている「五家宝」や「妻沼のいなり寿司」、小麦の産地として昔から親しまれてきた「熊谷うどん」や「フライ」、ご当地かき氷「雪くま」などのグルメが数多くありますが、これらの名物を、普段は口にする機会が少ないかもしれません。

3月に熊谷駅に開設した観光案内所では、熊谷にお越しになった方々に、市内の名物を紹介し、お土産として販売していますが、もっと、私たちの身近なお店で売っていただければ、いつでも購入することができ、そのおいしさが皆さんに伝わると思います。

しかしながら、どの商品を取り扱うかは、お店の売り上げに関わる重要な問題ですので、どのような方法で店頭に並べていただけるのか、スーパーやコンビニの関係者に相談したいと思います。

永崎さんには、熊谷市の美味(おい)しいものを友達に教えてあげて、また、お店で売っていたら、無理のない範囲で買っていただき、熊谷の名物の味を堪能してください。

続きまして、 巻島悠人議員さんの「職場のストロー現象」についてお答えします。

熊谷市は、都心への通勤や通学の交通利便性が高く、ストロー現象にも似た現象が発生していると言えます。

巻島さんのお話のとおり、若者が働きたいと思う職場を誘致することは、熊谷市の活力を維持・強化するために、必要なことだと考えます。

そのため、熊谷市では企業誘致に積極的に取り組んでいます。

例えば、熊谷市は新幹線を利用すると東京駅から37分で移動できる位置にあります。

このことは、都心に本社を置く企業が、災害時でも会社経営を継続するための第2の拠点を置く場所として熊谷市が適していると考えられますので、このような優位性を、都内の企業に、小林市長が直接PRして、企業誘致するセミナーを開催しました。

このほか、「熊谷市企業の立地及び拡大の支援に関する条例」を定め、市内に進出した企業へ奨励金を用意したり、工場を立てる場所を新しく創り出したりするなど企業誘致

に取り組んでいます。
　また、市内には大小さまざまな職場があり、優れた技術や隠れた魅力を持つ企業が数多くありますので、その魅力を取材し、皆様にお知らせする広報活動にも取り組んでいます。
　そのほか、職場が魅力的であり続けるための企業経営のサポートや、新しい事業にチャレンジし、新規の職場を創り出す企業の支援も行っています。
　これからも、熊谷市の産業の魅力を高めるさまざまな取組を進め、多くの皆様に熊谷市で働いていただきたいと考えています。

　続きまして、大久保陽斗議員さんの「野焼きを減らすために」についてお答えします。
　野外での焼却は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「埼玉県生活環境保全条例」で原則禁止とされていますが、大久保さんの質問のとおり、農業、林業又は漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる焼却については、この規制の対象外となっています。
　しかしながら、農業も産業として周辺環境に配慮するとともに、地域住民の方々と調和を図りながら発展していく必要があることから、市では、わらの焼却を行わずに、資源として有効活用していただくため、防災行政無線での呼びかけのほか、農業者へのチラシの回覧や、「農業委員会だより」等を通して、田んぼへのすき込みを推奨しています。
　提案の「市がわらを回収し、回収分に応じて肥料を農家に渡すシステム」についてですが、これまでにないアイデアですので、実施に当たっては研究が必要と考えます。
　わらを有効活用する取組については、これからも様々な方法を研究してまいりますが、市民の皆様が安心して生活できる環境づくりに配慮いただけるように、引き続き、農家の皆様に啓発していきたいと思います。

　続きまして、 水野琴音議員さんの「地産地消への道」についてお答えします。
　熊谷市では「地産地消」を推進するために、産業祭などのイベントやホームページ、SNSを通じてPR活動を行っています。
　昨年から市内事業者の皆さんと一緒に、地域ブランドの検討を重ね、ブランド名「晴れまち」として、令和7年3月に新たに動き出しました。
　これは熊谷市で採れた農産物や地元農産物を材料にした加工品などを熊谷市認定の熊谷オリジナル商品として、市内外に広めていこうという取組です。
　また、SNSでのLINE「クマぶら」内には「地産地消マップ」を掲載し、市内で採れた農産物を取り扱う直売所、販売店や飲食店などを紹介しています。
　水野さんもまだ足を運んでいないお店があると思いますので、ぜひ行っていただければと思います。
　「クマPAY」での割引サービスについては、面白いアイデアですが、それぞれの販売店で地元農産物のみを対象とした割引サービスができるかどうか、難しい課題もありますので、これから研究していきたいと考えています。

【質問】 質問番号7　都市整備部関係

議席番号25　富士見中学校　佐藤（さとう）　瑠唯（るい）　議員

みんなが自由に遊べる公園を増やす

昨年度の新体力テストの結果を見ると、ボール投げについて富士見中の平均が県平均を下回っていました。その一因に日頃の運動不足が考えられます。運動量を増やすために公園をもっと活用できるようにすることが必要だと思います。現在、一部の公園ではボール遊びなどが禁止されています。

そこで、例えば「ボール遊びができる専用スペースの設置」「遊具広場と運動スペースを区分する工夫」「時間帯を分けるなどの利用ルールの作成」などの仕組みを整えることを提案します。安全を守りつつ子どもがのびのび遊べる公園を増やすことが、熊谷市全体の子どもの体力向上につながると考えます。

議席番号26　妻沼西中学校　山岸（やまぎし）　陽斗（はると）　議員

交通事故をなくすために

私は普段自転車で通学したり遊びに行ったりしますが、特に初めての道路だと歩道を通ったらよいのか、車道の端を走ったらよいのかわからなくなることがあります。交通量が多かったり、車との距離が近かったりすると、車道を走るのが怖いと感じるからです。自転車の走る場所が危険であることも自転車の事故が後を絶たない理由だと思います。

私が熊谷駅の近くに行ったときに、車道と歩道の間に「自転車専用道路」があるのを見たことがあります。この「自転車専用道路」を今よりも増やせば、自転車事故を大幅に減らすことができると思います。交通事故から人々の命を守るため、少しずつ自転車専用道路を増やしていくのはいかがでしょうか。

議席番号27　熊谷東中学校　田中（たなか）　星菜（せな）　議員

大人も利用できる公園へ

熊谷市には子ども向けの公園は多くありますが、お年寄りや運動をしたいと思ったときに利用できる公園が少ないように思えます。

そこで、お年寄りの方などが軽い運動やストレッチなど気軽に運動ができる公園を増やすのはいかがでしょうか。

議席番号28　別府中学校　小沼（こぬま）　佑生（ゆう）　議員

足湯で地域の人と交流を深める

私たちは、未来の別府をつくるために地域の方々と座談会を行いました。そのなかで、地域の皆さんと繋がれる場所が欲しいという意見がありました。

私は衛生センターのごみ処理の熱を利用し、別府沼公園に足湯を作ることで皆さんが気軽に集まり、コミュニケーションの場になるのではないかと考えました。別府沼公園からは赤城山が見えたり、水辺や様々な木々があるなど自然に囲まれた素晴（すば）らしい癒しの空間です。別府沼公園で運動した後にさらに交流を深められる足湯施設を作ってみてはいかがでしょうか。

【答弁】 都市整備部関係

市長

佐藤瑠唯議員さん、山岸陽斗議員さん、田中星菜議員さん、小沼佑生議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、佐藤さんの「みんなが自由に遊べる公園を増やす」についてですが、公園の利活用の推進につながる具体的な提案をいただきありがとうございます。

佐藤さんの指摘のとおり、昨年度の新体力テストの結果において、一部の種目で県平均を下回っている現状は、私も課題として認識しています。公園などの主体的に体を動かすことができる環境を整備することは、体力や運動能力の向上につながると考えますので、幅広い世代の方がだれでも安全に、楽しく利用できるよう、利用ルールを含めた公園づくりについて、佐藤さんを初め、地域の方などの意見を参考に研究していきます。

次に、山岸さんの「交通事故をなくすために」についてですが、熊谷市は平坦な地形であることに加え、全国でも有数の快晴日数を誇るなど、自転車の利用に適した地域ですので、この特色を生かし、自転車を活用したまちづくりの実現を目指しています。

道路整備の面では、まちなかの交通量が多く、幅員に余裕のある道路には、山岸さんから提案のあった自転車専用道や車道の一部を青く塗った自転車通行帯を整備し、安全に自転車で通行することができる環境づくりを進めています。

これからも市民の皆様が安心・安全に、そして快適に利用できるよう計画的に自転車通行環境整備を進めていきます。

次に、田中さんの「大人も利用できる公園へ」についてですが、今後の社会を見据えた素晴(すば)らしい質問です。高齢化が進行する社会において、公園は子どもの遊び場という役割だけでなく、地域全体のウェルビーイング拠点としての機能が求められています。楽しいだけではなく、健康づくりや交流の場として、これからも、多くの方が訪れ、誰もが気持ちよく安心して利用できるよう公園の整備や管理に努めていきたいと考えています。

次に、小沼さんの「足湯で地域の人と交流を深める」についてですが、ごみ焼却時に発生する熱エネルギーに着目し、それを活用した足湯で地域の交流の場を創出するという地域の未来を見据えた素晴(すば)らしい提案をいただきありがとうございます。

現在、別府沼公園の周辺において、市民の皆様の健康増進のため、プール建設の計画を立てています。プールの計画策定に当たっては、貴重な一つのアイデアとして、地域の方の御意見とともに、検討に含めさせていただければと考えています。

副市長

続きまして、佐藤瑠唯議員さんの「みんなが自由に遊べる公園を増やす」にお答えします。

現在、公園の運営は、地域の方々の意見を取り入れて行っています。

特に、住宅地などにある公園は、周囲の環境にも配慮が必要なため地元自治会などと相談し、ルールを設けていることがあります。その中で、公園の広さや周囲の環境などから本格的な球技をご遠慮いただいている公園もあります。一方で多様化する公園のニーズに柔軟に応えられるような方策も必要なことから、これからも佐藤さんや地域の方々の

意見を参考に、誰もが気持ちよく安心して利用できる公園の活用ついて検討したいと考えています。

都市整備部長

続きまして、山岸陽斗議員さんの「交通事故をなくすために」についてお答えします。

熊谷市では令和4年3月に熊谷市自転車活用推進計画を策定し、自転車活用によるまちづくりの実現を目指しています。

この計画の中に、自転車通行空間ネットワークの計画路線を定め、令和8年度までに、64kmの整備を目標に掲げています。

山岸さんの提案のとおり、自転車事故を減少させるためには、自転車通行環境を整えることが重要だと考えていますので、熊谷の市街地から、順次、整備を進めています。

今年度は、妻沼高校西側の道路でも整備を予定していますし、将来的には山岸さんがお住いの妻沼西地区にも自転車が利用しやすい環境を整備していきたいと考えています。

続きまして、田中星菜議員さんの「大人も利用できる公園へ」にお答えします。

現在、熊谷市で管理している公園は410か所あります。そのうち、熊谷さくら運動公園や妻沼運動公園、江南総合公園では、テニスコート、野球場、ウオーキングコース、多目的広場など、様々なスポーツ施設があり、市内外から多くの方に利用されています。皆さんも知っているアクアピアのプールも子どもから高齢の方まで幅広い年代の方に利用されています。

また、別府沼公園ほか27か所の公園には、大人の方の利用を目的に設置した背伸ばしベンチ等の健康器具があるほか、身近な公園においてもグラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフ、ペタンクなど、世代を超えて楽しめるニュースポーツにも利用されています。

これからも、複合遊具の更新や健康器具の導入など、子どもから大人まで、誰もが気持ちよく安心して利用できるよう公園の整備に努めていきたいと考えています。

続きまして、小沼佑生議員さんの「足湯で地域の人と交流を深める」についてお答えします。

公園に地域の方が気軽に集まり、交流ができる場をつくるという、公園を核としたまちづくりの展開につながる素晴(すば)らしい提案だと受け止めています。

公園の役割のひとつに、多様なニーズに応えられるサードプレイスとして、一人ひとりの心豊かな生活を支える役割もあると認識していますので、引き続き、地域の方などと協働して、多くの方に利用してもらえるよう、魅力的な公園づくりに努めていきたいと考えています。小沼さんも友達と一緒に、ぜひ別府沼公園を利用いただき、お気づきのことがあればこれからも提案等いただき、公園づくりに協力いただきたいと考えています。

【質問】 質問番号8　建設部関係

議席番号29　　大里中学校　　渡邉（わたなべ）　陽向（ひなた）　議員

カーブミラーで事故防止

　私が普段通学していて気づいたことですが、車が近づいていることに気づきにくい場所があります。カーブミラーを見ても、伸びた草や家の塀で、接近する車が見えにくくなっている場所があります。

　そこで、交通事故防止のために、市内のカーブミラーの位置や向きを見直すのはいかがでしょうか。また、冬はミラーが曇ってしまい、ほとんどカーブミラーとしての機能を果たしていないところもあるので、曇りにくい素材のミラーへの転換を進めてみてはいかがでしょうか。

【答弁】 建設部関係

市長

渡邉陽向議員さんの「カーブミラーで事故防止」について、私から全般的にお答えします。

熊谷市では、カーブミラーは、交通事故防止のため、学校や地域の意見・要望を踏まえ、交差点やカーブ部分など、見通しが悪く、車の運転手から他の車が見えない危険な箇所に設置しています。カーブミラーの特性として、映せない部分、いわゆる死角があるため、車の運転手が自転車や歩行者を認識しづらいこともあります。

そこで、注意喚起として、交差点注意等の路面標示やオレンジ色のラバーポールを設置するなどの安全対策も行っているところです。

皆さんが、交通事故に遭わないように交通ルールをしっかり守ることをお願いするとともに、これからも安全対策を進めていきます。

建設部長

続きまして、渡邉陽向議員さんの「カーブミラーで事故防止」についてお答えします。

カーブミラーは、建物や塀などにより、見通しが悪い交差点やカーブ部分など車の運転手が他の車の確認が難しい場所に、交通事故の防止を目的として設置しています。

現在、市内にカーブミラーを約5,600基設置していますが、老朽化の程度や反射鏡の向きなどについては、定期点検の中で確認を行い、その都度、対応しています。

また、渡邉さん提案の曇りにくい素材のカーブミラーについては、現在、試験的に設置していて、その効果を検証しているところです。

渡邉さんが通学途中で、草が伸びた場所など見えにくく危険な箇所がありましたら、保護者や学校の先生を通じて市役所に連絡してください。

カーブミラーには、死角があり、交通事故防止のための補助的なものなので、皆さんも目視での確認を確実に行い、交通事故に遭わないように気を付けて通学してください。

【質問】 質問番号9　教育委員会関係

議席番号30　荒川中学校　高橋（たかはし）　鈴音（すずね）　議員

給食で地産地消

私たちの食べている給食は、給食センターなどで作られ各学校に届けられています。メニューは豊富で、私は毎日給食の時間を楽しみに学校生活を送っています。そんな給食の中に、月一回ほど「ふるさと給食の日」という給食が出ます。この「ふるさと給食の日」では、地元埼玉の食材を多く使った給食が出ます。熊谷市は、農産物として「米」や「麦」、「きゅうり」などがあります。私は、地産地消の取組として、この熊谷の農産物を使った給食をもっと増やしたほうが良いと考えます。

今後熊谷市の農作物を使った給食を増やそうとする考えはありますか。また、給食の地産地消についてどのように考えているのでしょうか。

議席番号31　吉岡中学校　横森（よこもり）　来太（らいた）　議員

熊谷市の明るい未来のために

僕は、学校生活で地域の人と交流する機会が少ないなと感じました。

もっと地域の人と交流を深めて、明るい市にしていくために小中学校での地域のイベントへの参加を取り入れていくのはどうでしょうか。そうすることで、生徒のボランティア活動への意欲を高め、地域を明るくしていくことが望めると思います。

議席番号32　奈良中学校　木村（きむら）　春陽（はるひ）　議員

子ども同士の関わりの場について

現在熊谷市では、「くまキッズ」という建物が建設中です。この施設では子育て支援や保健関係がメインですが、勉強ができる施設もあるそうです。

そこで、この施設で勉強会を開くのはいかがでしょうか。ほかの学校の生徒や違う学年の人と関わる機会になるので、良い経験ができると思います。また、「くまキッズ」において、今後このような取組を予定しているのかについてもお聞きしたいです。

【答弁】 教育委員会関係

市長

高橋鈴音議員さん、横森来太議員さん、木村春陽議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、高橋さんの「給食で地産地消」についてですが、熊谷市では、地域の恵みに触れ、地元の農業に親しみを持てるよう、月に一度、「ふるさと給食の日」を設け、積極的に熊谷産の食材を取り入れています。また、10月には、熊谷市誕生20周年を記念し、児童生徒の皆さんから選んでいただいた地元農産物を使ったプレミアム給食を提供しました。

地元の農産物を使った給食をもっと増やせないかという意見は、熊谷市の農業振興にも貢献する大変素晴(すば)らしい考えです。

現在、整備を進めている新たな学校給食センターでは、より多くの新鮮な地元農産物を調理できるように、最新の設備を導入しますので、高橋さんから提案いただきました「給食で地産地消」が実現するよう努めていきたいと思います。

次に、横森さんの「熊谷市の明るい未来のために」についてですが、小中学生の地域イベントへの参加は、地域の方々にきっと喜ばれ、熊谷市の未来を明るくしてくれる、大変素晴(すば)らしい提案だと思います。

現在、市内の各学校では、お祭りや清掃活動、福祉施設の訪問など、地域との交流の機会を工夫しながら広げています。これからも、こうしたよい事例を各学校に紹介し、地域との交流がさらに深まるよう、進めていきます。

皆さんも、授業や委員会活動、部活動等を通して、地域の方との交流について考え、実践してください。

次に、木村さんの「子ども同士の関わりの場」についてですが、提案のような勉強会を通して他校の生徒や違う学年の仲間と関わることは、交流を広め、様々な考え方に触れ学び合う非常に有意義な経験になると思います。

木村さんのお話にもありましたが、熊谷市では、現在、令和8年4月からの利用開始に向けて、子供の遊びの場、学びの場である「くまキッズ」を建設中です。この「くまキッズ」には、中学生や高校生の利用を想定した自習室や音楽室、軽体育室などを設置する予定です。

勉強会もひとつのアイデアとして、どのような取組ができるか考えたいと思います。

教育長

続きまして、高橋鈴音議員さんの「給食で地産地消」についてお答えします。

熊谷市では、給食に市内で生産された食材を取り入れるように努めていますが、毎日多くの食材を用意する必要があり、天候や収穫量によっては必要な量が確保できないこともあります。現在、「JAくまがや」や地元農家の協力をいただきながら、安定して熊谷産の食材を届けてもらえる体制づくりを進めています。

また、給食のメニューづくりでは、栄養士や調理員が市内産食材に合わせて献立や調理方法を工夫し、地域の味を楽しめるようにしています。

これからも、地元で採れた新鮮でおいしい食材により、子供たちが地元の農業に誇り

を持ち、また、食に関わる人たちへの感謝の気持ちと地域の愛着がより深まるよう、「給食で地産地消」を積極的に進めていきたいと考えています。

続きまして、横森来太議員さんの「熊谷市の明るい未来のために」についてお答えします。

横森さんの提案は、「熊谷市の未来を地域の方と一緒に作っていきたい」という強い思いが感じられ、大変嬉(うれ)しく思います。

現在、市内の各学校では、地域の行事や活動に積極的に参加し、地域とのつながりを深めています。例えば、うちわ祭のお囃子を体験する機会を学校で設け、各地区のお囃子への参加を促したり、「納涼祭」や地区運動会などの地域の行事を学校で実施したり、妻沼聖天山の清掃活動に部活動で参加したり、敬老会で小中学生が合唱や踊りを披露したりするなど様々な交流が行われています。

このような子供たちと地域の方との交流が、他の学校にも広がっていくよう、改めて、教育委員会からも各学校に伝えます。

ぜひ、横森さんには、地域の方とどのような交流ができるか、また、小中学生たちがどのようなボランティア活動に取り組めるか、皆さんと一緒に考え、発信していってほしいと思います。

続きまして、木村春陽議員さんの「子ども同士の関わりの場」について、お答えします。

「くまキッズ」での勉強会を通して、他校の生徒や違う学年の仲間と関わることは、皆さんにとって、非常によい機会になると思います。

学校でも、生徒会活動における委員会活動やボランティア活動、学校行事では体育祭など、様々な場面で違う学年の生徒が協力しながら活動しています。また、最近は部活動地域連携で、部活動を通して他校の仲間ができ、「たくさんの仲間と練習ができて、友達が増えて嬉(うれ)しかった」という声も聞いています。

このように、他校の生徒や違う学年の仲間と関わることは、皆さんのコミュニケーション能力を向上させたり、自己有用感や自己肯定感を高めたり、リーダーシップなどを学んだりできるよい機会です。

勉強会という提案を「くまキッズ」の活動のひとつとして実現できるかどうか、教育委員会でも話し合ってみます。木村さんも様々な活動を通じて他校の生徒や違う学年の仲間と関わる経験を積んでほしいと思います。